

たい こう が なる 太閤ヶ平を歩く

太閤ヶ平は、鳥取城山上ノ丸から東に1.5kmの地点、本陣山と呼ばれる山の頂（標高251m）にあります。1581年（天正9）の兵糧攻めに際して築かれた陣城（戦いのために臨時的に築かれた城）群の本陣で、織田信長の家臣であった羽柴秀吉が約100日間全軍指揮にあたった場所です。そこからは、秀吉のほか、後に築城の名手として知られる加藤清正や藤堂高虎、キリシタン大名で著名な高山右近、秀吉の軍師として活躍した黒田官兵衛などの武将が見た鳥取城の姿を、今も望むことができます。



日本最高傑作の土の陣城 太閤ヶ平の構造



太閤ヶ平の構造は、秀吉の三大城攻めとされる三木城（兵庫県三木市）攻めや、備中高松城（岡山県岡山市）攻めの本陣と比較しても圧倒的な土木量を誇り、日本最高傑作の土の陣城と評されています。鳥取城は、織田信長が毛利と雌雄を決する場として想定していた戦場でした。このことから太閤ヶ平は織田信長の出陣を前提に築かれたと考えられています。

1 太閤ヶ平周辺から見た鳥取城

鳥取城を守る吉川経家が、日本海からの補給路として築いた岩群の山並みを望むことができます。



2 大手虎口

大手虎口は、両端部に築かれた櫓台と窪地状突出部の土塁上双方から攻撃ができるようになっています。



3 窪地状突出部

船の先端を思わせるような構造で、狭い入口に窪地があり、半地下式構造をもつ天主のような象徴的な建物があったという説があります。



4 多重の堀と大防衛ライン

太閤ヶ平の鳥取城側は、総延長700mに及ぶ堅堀（たてぼり）・横堀（よこぼり）が掘られ、巨大な防衛ラインを形成しました。

